

・貯金ができない

・「そろそろ貯金をしなければ」と考えている

・世の中のお金の本は難しくて読めない

・お金の勉強をしたいけど、どんな本から読んだらいいかわからない

本書は、そんな人たちに向けた、やさしくてわかりやすいお金のマニュアルです。するする読めて、その日からすぐに実践できる「お金を貯める・増やす方法」が詰まっています。

はじめに

6000人の吉本芸人の中で、
「最もお金に詳しい芸人」が書いた
「本当のお金の超入門書」

「お金がない人」の代名詞、「芸人」という仕事

芸人の多くは、貧しい生活を強いられています。

その証拠に、芸人の95%が本業以外にアルバイトをしています。

「M-1グランプリ」や「キングオブコント」で決勝に進出するような才能があり、努力を重ねた人でも、当日や前日までアルバイトをしていたという話はよく聞きます。

お笑いの仕事だけで「健康で文化的な最低限度の生活」を送るのは、とてつもなく難

しく、みな貧しさと手をつないで生きています。

「ライブに出ると、どれくらいお金をもらえるの？」と聞かれることがあります。

若手芸人の場合、お金をもらうのではなく、お金を払ってライブに出ていることがほとんどです。

それでも出演するのは、そういった活動の積み重ねが能力の向上につながるし、そもそもお金をもらうためにライブに出ているわけではないからです。

ライブ会場に行くための交通費も自己負担、衣装や小道具も自分たちで用意します。

学園祭や企業のイベントなどの営業がなければ、芸人としての収入はほとんどありません。

ばくの同期で、芸人になってからの12年で、一度も吉本興業から支払明細書を受け取ったことがないコンビがいます。

彼らはずっとアルバイトをしています。ネタづくりやライブ出演に時間を消費するので、アルバイトで生活するフリーターの方々より



収入は少なくなってしまう。

でも、諦めません。

どんなに貧しくても、楽しいから続けていられる。

それが芸人という職業だと思います。

国税局でやっていた仕事

ぼくは大学卒業後、国家公務員試験を受け、それに合格し、東京国税局に入局しました。

「お金の計算が得意だったから」というのがその理由です。

国税局では、法人の担当になって、法人税の調査をしていました。

日々法人に向き、社長さんや経理担当者さんの話を聞いて帳簿を拝見し、誤りや不正があれば、修正申告を促し、正しく納税してもらっていました。不正があれば、「重加算税」という罰金のようなものを払ってもらうこともありました。

国税局の仕事は、ぼくにとっては、とてもやりがいがあった、楽しいものでした。

企業と比較すると行政の仕事は結果がわかりづらいものですが、**成果が金額にあらわれる税務調査は明快です。**

知識を増やし、深く考えることで、大きな結果に結びつく。逆に、**不勉強や準備不足がミスにつながることもあります。**

そのようなリスクやコストと隣り合わせにあるからこそ、結果を出したときの充実感や達成感は、より大きいものでした。

講演会などでそのことを「国税の仕事は楽しかった」と一言で済ますと、来場者は苦虫を噛み潰して、舌で味わって、嘔吐したような顔をするのですが、それがぼくの正直な気持ちです。

ぼくが国税局から、芸人の世界に飛び込んだ理由

ここまで読んで、みなさんはどう感じたに違いありません。



なぜ国家公務員である東京国税局職員を辞めて、経済圏でとても厳しい芸人という世界に足を踏み入れたのか――。

みなさんと同じように、ぼくと会った人も、同じ疑問を抱くようです。

「どうして、国税局を辞めて芸人になったんですか？」
題に3回は聞かれます。

そのときぼくは、いつも同じように答えます。

「おもしろそうだったからです」

ぼくは、働くなら、「楽しい仕事」がいいと思っています。

国税局の仕事は楽しかったけれど、「芸人のほうが、もっと楽しいだろう」と考えて、吉本興業さんの養成所であるNSCの門を叩きました。

仕事を楽しめれば、人生はよりよいものになります。

楽しいことをしてお金がもらえるなんて、こんなに幸せなことはありません。



ただ、それだけでなく、「楽しい仕事」をすることは、じつはこの本のテーマである。「お金を増やす・稼ぐ」ためにも、ものすごく重要なことなのです。その理由については、本編でたっぷり解説したいと思います。

お金持ち、貧困甚人、両方見たから本質がわかる

妻人は、人と会う機会の多い職業です。

とりわけ、ぼくは経営者団体の講演会などで多くの経営者と会い、話を聞いてきました。

リスクをとって成り上がった豪快な社長さんもいれば、親から事業を引き継いだ気品のある社長さんもありました。

「毎月家族13人で、ホテルオークラでステーキを食べるのが楽しみだ」という80歳の社長さんや、ビットコインで一山当てて起業した社長さんもありました。

その数は1000人以上にのぼります。



1000人以上の経営者と会うことで、裕福な人の「お金に対する考え方や行動の傾向」を、肌感覚でつかむことができました。

その一方で、収入がなかなか増えずに困窮する正社員や派遣社員の方をたくさん見ましたし、何より芸人仲間からはお金がない話、借金の話を、これまで何度となく聞いてきました。

「借金が200万円以上ある」という先輩芸人の話をはじめ聞いたときは、思わず「大丈夫ですか？」と尋ねてしまいました。

すると、返ってきたのは「大丈夫だろう」の一言。

疑問でも、断定でもない。

推測の「大丈夫だろう」。

先輩の一言に、ぼくは勇気をもらい、「人それぞれの借金との向き合い方があるんだな……」ということも実感しました。

お金が貯まらない人の「ある共通点」は？

ぼくはこれまで仕事を通して、本当に多くのお金持ちの人と、そうでない人、両方とたくさん接してきましたが、その経験を通して気づいたことがあります。

それは、お金持ちの人と、そうでない人には、往々にして「**考え方や行動に、ある共通のパターン**」があるということです。

たとえば、貯金ができない人に話を聞くと、そのほとんどがクレジットカードで買い物をしていきます。

もちろんぼくもクレジットカードは便利で使えますし、そのこと自体が悪いわけでは当然ありませんが、貯金ができない人に限って、いつも言うことが同じなのです。

「いつのまにかお金がなくなっている」

「何に使ったかわからない」

「来月から、がんばらばいい」





さんきゅう倉田は見た！

売れている芸人さんはみんなやさしい

ぼくの知るかぎりでは、売れている芸人さんはみなさん常識があり、やさしい。大御所の方でも、ぼくらのように売れない芸人に敬意を持って接してくれます。

ぼくが出会った中で最もやさしいと思うのは、千原兄弟の千原せいじさんです。ガサツで初対面の人にも遠慮せず、物を言うイメージがあるかもしれませんが、類いまれな人格者だと思っています。

せいじさんのやさしい行動は、日々たくさんあって、枕元に暇がありません。小さな心遣いが絶えることなく連続しているので、言葉にして取り出すのが難しいほどです。

たとえば我々、せいじさんを含む芸人4人で、お正月に旅行に行きました。ホテルの部屋は別々だったので、夜、部屋で少し飲んだあとは、翌朝日時に口



ビーに集まる約束をして、それぞれの部屋で就寝しました。

一番後輩だったぼくは、翌朝、誰よりも早くロビーに行くべきでした。

しかし、旅の楽しさから気がゆるんでおり、定刻どころか一分遅刻してしまいました。最低の後輩です。

ぼくが到着したときには、すでに全員がロビーにいて、先輩のひとりが険しい顔で「なにしてたの?」と問いかけました。

その瞬間、「なにし……」くらいのタイミグで、せいじさんが言いました。

「自分、かわいい靴、履いてんよ」

緊張した空気が生まれると予見して、関係のない話題を振ってくれたのです。

ぼくは前日から同じ靴を履いていたし、昨年からずっとその靴を履いていました。

いままさら、注目するような靴ではないはずです。

先輩だったら、待たされたことで後輩を注意してもいいはずなのに、それすらせず、話題を変えてくれました。

あのとときの靴をさす指の角度、腕の伸ばし方、両足の幅は、いまでも目に焼き付いています。

あれ以来、ぼくも後輩が待ち合わせに遅れてきたら、「百分、可愛い靴、履いてんな」と最初に乗めるようにしています。

お金持ち、貧困芸人、両方から学んだ 「お金を貯める・増やす」秘訣を1冊に

いま紹介したエピソードは一例ですが、お金持ちの人ほど、トラブルや他人のミスにあれこれ文句をいって、大切な時間を浪費したりはしません。

それほど暇ではないですし、他人の前で怒ったり横柄な態度をとったりすれば、人に嫌われ、人間性を疑われ、よけいな恨みを買うことにもなりかねません。

怒ったり横柄な態度をとったりすることは、人間関係において大きなリスクを負うことになることを、よく知っているのだと思います。

逆に、他人に寛容になれば、人に好かれ、まわりまわってチャンスやいい仕事が増えてくるかもしれません。困ったことがあったときは、誰かが手を差し伸べてくれるかもしれません。

つまり、お金持ちほど、「目先の獲得や感情」に振り回されず、十歩も百歩も、先を見ている人がじつに多いのです。

この本では、ぼくが大勢のお金持ちを見てきて学んだ「お金の稼ぎ方」「使い方」とどまらず、このような「時間に対する感覚」「人との付き合い方」についても、詳しく紹介していきます。

また、先ほどお金が増えない人の例を紹介しましたが、そういう人に「誰でもできる簡単なお金を貯めるルール」をアドバイスしてあげることがよくあります。

すると、「貯蓄ができるようになった!」「自然とお金が貯まった!」と感謝されることが多いのです。

本文に登場する借金が270万円あった芸人さんも、1年間で100万円ほど借金を減らすことができました。

彼のお手伝いは1年で終了しましたが、時折、借金残高を聞くと、もう増えていないようです。

一時は、利息の支払いのために新たな借金をしていたほどだったのに、「考え方」が変わったことで、「お金の使い方」が大きく変わったようなのです。

ぼくも含めて、よほどの聖人君子でない限り、欲望に負けて、ついお金を使ってしまうよ。気がつくと、お金が減っていて、貯金がなかなか増えませぬ。

だからこゝろ、「お金を貯める」には、「貯金しよう」という「意志」だけじゃなく、「正しいルール」が必要なのです。

本文で紹介していますが、ぼくは国税局に入って、手取りの給料が20万円ほどの新卒時代に、2年1カ月で250万円ほど、貯金を増やしました。

たとえ収入が多くななくても、お金がきちんと貯まる秘訣があるのです。

その「超簡単なルール」も、この本ではわかりやすく紹介します。



「お金を貯める・増やす」ために大切な2つのこと

「お金を貯める・増やす」ためには、次の2つが大切になります。

①「お金に関する決まりごとや数字」に強くなる

身の回りのお金に関する法律、お金の運用、年金、保険などについての最低限の知識を身につける。

②「お金に関するリアルな体験やトラブル」から学ぶ

さまざまな人が実際に体験したお金がらみのエピソード、さまざまな人のお金の使い方、価値観を知る。

国税局を辞めてからも、絶えず税金やお金について調べ、さまざまな人から話を聞き、インプットとアウトプットを繰り返してきました。

①は本や資料からいくらでも仕入れることができますが、②については、自分の経験

だけでは足りません。だからぼくは、日々出会うさまざまな人から話を聞くようにしてきました。

そのおかげで、「市販の本には書いていないような、生きたお金に関する情報」も知ることができました。

国家公務員時代に学んだこと、妻人として見聞きした経験、そして

てぼくの異色の経歴をおもしろがって話をしてくださった多くの方との関わり――。

お金がない人とそうでない人、その両方と比較して、どんな行動がどんな結果を導くのか、避けるべきNG行動と、ぜひ今日からやりたい黄金ルールは何なのか、それを

「お金を貯める・増やすルール」として1冊で全部まとめたのが、この本になります。

ぼくが集積してきた、さまざまなお金に関する情報を知識として仕上げ、わかりやすく、しかも楽しく読めるようにまとめました。

お金に詳しくない人でも実践できる内容を厳選し、ぼくが見聞きしたエピソードもふんだんに入れることで、お金の本を読むのが初めての人でも「なるほど！」と思ってもらえる、「世界一やさしいお金の入門書」になるように、3年かけて全力で書きました。



この本を読んで、みなさんの日々の行動により変化が起ころ、お金が貯まるようになって
ればとてうれしく思います。

2021年12月

さんきゅう倉田